

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 21 日作成)

小委員会名	「ガイドライン実験動物施設の建築および設備」 改訂刊行小委員会		主 査 名：蜂巣 浩生 就任年月：2006 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (企画刊行運営委員会)		委員長名：加藤 信介 主 査 名：吉野 博
設 置 期 間	2006 年 4 月 ~ 2007 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	「平成 8 年版 ガイドライン 実験動物施設の建築および設備」の改訂		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無： 無		
	朱宮正剛(日本実験動物環境研究会), 朝倉康之(正久), 北村規明(日建設計), 小川景一(千代田テクノエース), 海老根猛(テクノ菱和), 吉田一也(ダイダク), 仁田修治(田辺 R&D サービス), 三枝順三(沖縄科学技術研究基盤整備機構), 浅野敏彦(医薬品医療機器総合機構), 斉藤英弥(山武), 北林厚生(ヤマ・エコ・システム), 夏目克彦(夏目製作所), 矢田修(日立空調システム), 小暮一俊(日立空調システム), 蜂巣浩生(日大理工)		
設置 WG (WG 名: 目的)			
2006 年度予算	200,000 円	ホームページ公開の有無： 無 委員会 HP アドレス： 無	

項 目	自己評価
委員会開催数	9 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	「2007 年版 ガイドライン 実験動物施設の建築および設備」
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	シンポジウム ガイドライン「実験動物施設の建築および設備」を考える(日本実験動物環境研究会 主催)開催 参加者数 56 名 (資料名) 第 37 回日本実験動物環境研究会講演要旨集
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 現状においては不適当な記述を削除し, 近い将来まで適用され则认为られる技術について記述することができた。 2. 建築技術者のみならず実験動物関係者にとっても理解の助けとなるような内容となった。
委員会活動の問題点・課題	1. 定期的な改訂作業を軌道に乗せる必要である。 2. アカデミック・スタンダード化について検討する必要がある。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。

* 環境本委員会傘下の小委員会においては, 上記の活動成果報告書に加えて, 以下の自己評価を記入すること。

* 中間年度には中間評価を, 最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2006 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>平成 8 年版の刊行以来 10 年余りが経過する中で、不適当な記述も見られるようになり、改訂を望む声が聞かれるようになったと同時に、ここ数年間に相次いだ関連省庁・団体の法改正を背景として、その改正内容に盛り込まれた理念を施設の建築および設備にどのように反映させるかという視点の下に改定作業は行われた。</p> <p>その結果、建築・設備の関係者にとっては知っておかなくてはならない知識・技術として、また実験動物施設の管理・運営に携わる方々にとっては、施設の適切な運営のための知識として基本的に理解していただきたい内容にまで言及している。</p> <p>これにより、実験動物施設の新規計画や改修計画、設計・施工の場で、実験動物関係者と建築関係者とが共通の認識の下で施設の在り方を考える内容にすることができたと考えている。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。